

# 世界遺産推進プロジェクト

## ～長崎から2つの世界遺産を～

### 世界遺産

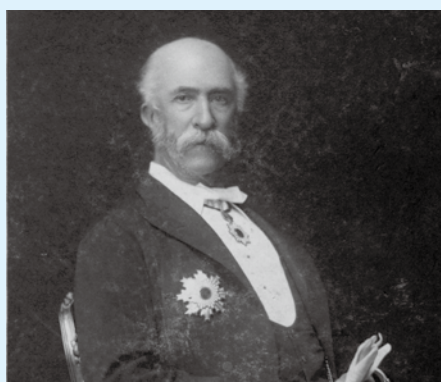
明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業

Sites of Japan's Meiji Industrial Revolution  
Iron and Steel, Shipbuilding and Coal Mining



旧グラバー住宅

スコットランド人貿易商  
トーマス・ブレイク・グラバー



(長崎歴史文化博物館収蔵)

西洋から日本への技術移転の触媒の  
役割を果たした

### 世界遺産候補

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産

Hidden Christian Sites in the Nagasaki Region



大浦天主堂

フランス人神父  
ベルナール・プティジャン



(カトリック長崎大司教区提供)

浦上村の潜伏キリシタンの信仰の告白  
「ワタシタチノムネ、アナタトオナジ」

# 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」

## 世界遺産登録とユネスコ勧告

### ●「明治日本の産業革命遺産」

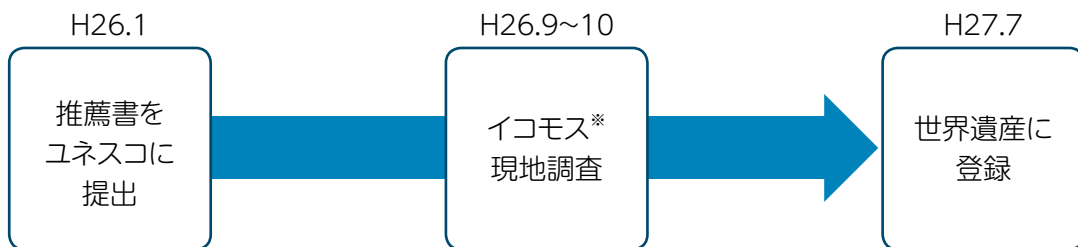
我が国は、幕末から明治期にかけてのわずか半世紀で急速な産業化（産業革命）を成し遂げました。

この産業革命は、<sup>ちゅうてつ</sup>鑄鉄技術の模索や洋式船の模倣など、長崎に入ってくる蘭書片手に試行錯誤を繰り返すことから始まりました。その後、西洋技術を受け入れながら専門知識を習得し、明治後期には人材も育ち産業化が完成。我が国の産業革命は、非西洋地域において自らの努力によって成し遂げたことに大きな意味があり、工業立国としての土台を築きあげるきっかけとなった大きな出来事です。

長崎のまちは西洋の知識や技術の導入の窓口でした。そして開国前の幕末期、長崎にやってきたトーマス・ブレーク・グラバーは、日本の侍と西洋技術を結びつける触媒の役割を果たしました。

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、西洋から非西洋への産業化の移転が成功したことを証明する産業遺産群で、平成 27 年 7 月、世界遺産に登録されました。

### ●登録までの経過



※イコモス（国際記念物遺跡会議）は、人類の遺跡や歴史的建造物など文化遺産の保存のための国際組織です。ユネスコの諮問機関として、世界遺産登録の審査、モニタリング活動も行っています。

### ●登録時の課題(ユネスコ勧告)

「産業革命遺産」は世界遺産に登録されましたが、登録にあたりユネスコ世界遺産委員会から 8 つの課題が与えられました。この課題のなかには、長崎市の構成資産の保全や世界遺産価値の周知に関するものなどがあります。

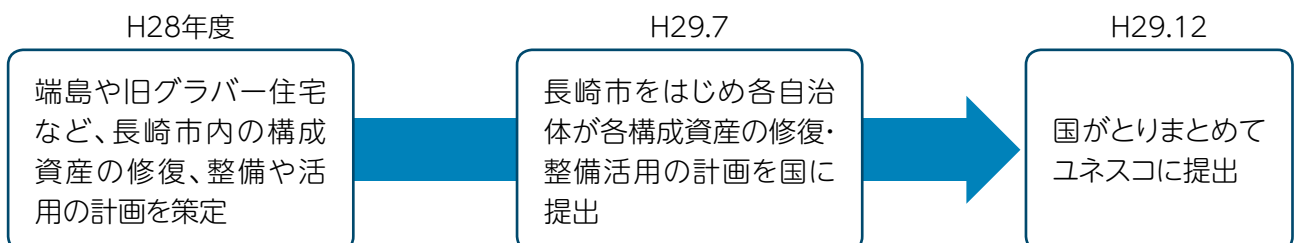
たとえば、

- ・端島炭坑の詳細な保全措置計画の優先策定
- ・構成資産に関する優先順位を付けた保全措置計画と実施計画の策定
- ・全国 8 県 11 市にまたがる 23 資産のそれぞれの関係が理解できる説明戦略の策定

などですが、他にも資産の保全のための来訪者数の明確化、構成資産の保全や保全のためのモニタリング、さらには将来に向けた人材育成なども求められています。また、これらの課題への対応状況を、平成 29 年 12 月までに報告する必要があります。

世界遺産登録はゴールではなく、登録により新たなスタートを切ることになりました。長崎市は、国や県の力も借りながら、このユネスコ勧告に取り組みます。

### ●ユネスコ勧告への対応



## ●端島炭坑の整備

端島は閉山後 40 年以上放置されていたため島全域の劣化が進行しています。ユネスコ世界遺産委員会は、第 1 番目の勧告として端島炭坑の詳細な保全措置計画を優先的に策定することを求めています。

そこで、国内の専門家組織した「長崎市高島炭鉱整備活用委員会」をはじめ、国や県とも協議しながら今後の整備方針を定めていくことにしています。

ここでは、現在検討している端島の最優先整備方針をご説明します。

また、この本格的整備は、ユネスコ勧告に対する報告書を平成 29 年 12 月に提出した後の平成 30 年度から着手する予定です。

### 端島炭坑の整備方針

#### ○護岸及び石積擁壁遺構

端島は、岩礁の周りを順次埋め立てて造成された人工の島です。そして、端島は島の周囲にある護岸で守られています。また、島内には石積の擁壁があり、この護岸と石積擁壁で端島という島の形態が維持されています。端島の護岸と石積擁壁は明治期のもので世界遺産としての顕著な普遍的価値に貢献していることから、最優先の整備対象として保全していく予定です。



【護岸遺構】

#### ○生産施設遺構

端島内には、今でも石炭を掘り出すために使われていた施設の遺構群（生産施設遺構）が残っています。坑口に設けられていた入坑棧橋、人や石炭が載ったケージを動かすための捲き座、採炭に必要な電力や圧縮空気を供給していた施設、掘り出された石炭を選別し、貯え、運び出すための施設、そして軍艦島といわれる端島のシルエットにも貢献している端島神社などを優先して整備していく予定です。



【第3竖坑捲き座跡】

#### ○居住施設遺構

昭和 30 年代、端島には 5,300 人近くの人々が住んでおり、日本一の人口密度を誇っていました。端島に残るアパート群（居住施設遺構）のうち島の最も高い場所にあったアパートが 3 号棟と呼ばれる建物です。

端島のシルエットにも貢献しており、比較的劣化が進んでいないことから、この 3 号棟から保存整備を始める予定にしています。



【3号棟】

#### ※整備に要する費用

以上の整備に要する費用として、平成30年度から30年間で108億2千万円と積算しています。この金額には、新たな見学通路の整備やモニタリング等の費用も含まれています。

## ●財源の確保

### ○国や県への支援要請

端島は国指定の史跡であり世界遺産の構成資産であることから、整備にあたっては国や県に対しても財政支援の要望を行います。



台風の波に洗われる端島

### ○端島(軍艦島)整備基金

ふるさと納税、寄附金（市役所などに募金箱も設置しています）、端島見学施設使用料（上陸料）を基金に積み立てて、将来に備えます。

## ●非稼働資産と稼働資産

長崎市内の構成資産には、非稼働資産と稼働資産があります。

非稼働資産とは、端島や旧グラバー住宅などのように、すでにその本来の目的を終え今は文化財として保全されている資産です。一方、稼働資産とは、三菱重工業(株)長崎造船所内にあるジャイアント・カンチレバークレーンなどのように今も現役で活躍している資産です。

ユネスコは構成資産の保全措置計画とその実施のための計画の策定を求めています。

## ●端島炭坑以外の構成資産の整備

### 旧グラバー住宅



長崎の代表的な観光名所であるグラバー園。その中でも最も有名な旧グラバー住宅には、毎年100万人もの観光客が訪れています。

この旧グラバー住宅は、昭和40～42年度に大規模改修を行いました。それから長い時間がたち外壁や室内に傷みが発生しています。

そこで、将来の大規模修繕に向け今年度は耐震診断を実施しています。今後、ユネスコとも調整しながら、世界遺産の構成資産にふさわしい保全を行う予定です。

### 高島炭坑(北溪井坑跡)



高島炭坑ほっけいせいこうあとは高島港から1.5キロほど北に行った場所にありません。その見た目は井戸のようにも見えますが、実は、我が国で初めて蒸気機関という動力が導入された炭坑で、当時は蒸気を作るボイラや、石炭を引き上げるための檣やぐら、そして掘り出された石炭を近くの港まで運搬するためのレールなどが存在していましたが、今では地上の遺構は失われています。

そこで、ここに明治期の炭鉱施設の模型を設置したり視点場を設けるなどして、我が国初の近代的炭坑であった北溪井坑が理解できるような計画を策定することにしています。

### 小菅修船場跡



幕末、我が国が保有していた蒸気船は海外からの中古船が主でした。そしていったん故障すると国内では修理ができなかったため、上海などに船で曳いて行き修理していました。この不便さを解消するために薩摩藩がグラバーとともに建造したのが小菅修船場です。船を海から曳き揚げのため蒸気機関が用いられましたが、最初の曳き揚げの時は一目見ようとたくさんの人々が押し掛け黒山の人だかりだったそうです。

これからの修復や整備活用の計画は資産所有者である三菱重工業(株)で作成されますが、長崎市も国や県とともに計画策定に関わります。

## ●稼働資産

文化財とは異なり、今でも現役の構成資産はメンテナンスを行いながら使用し続けることが最大の保全となります。

三菱長崎造船所  
だいさんせんきょ  
第三船渠  
(非公開施設)



三菱長崎造船所  
ジャイアント・  
カンチレバークレーン  
(非公開施設)



三菱長崎造船所  
きゅうさぎなほ  
旧木型場



三菱長崎造船所  
せんしゅうかく  
占勝閣  
(非公開施設)

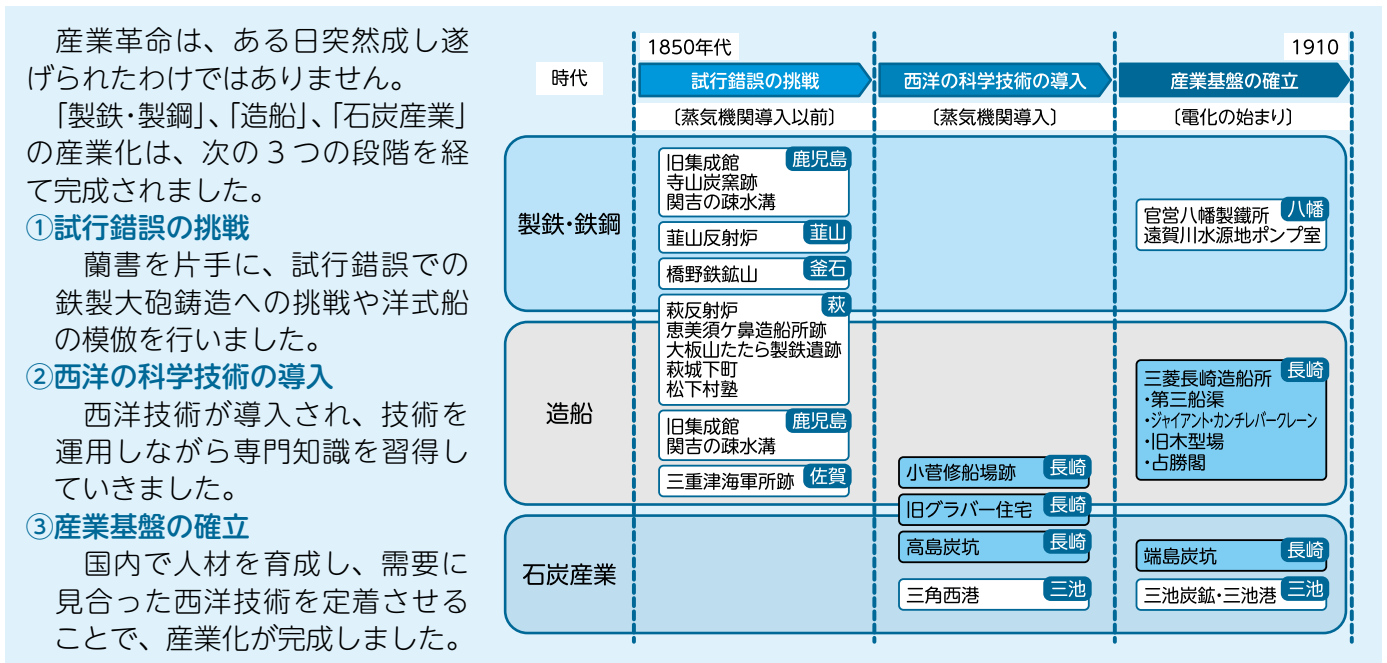


●シリアルノミネーション

「明治日本の産業革命遺産」は、幕末から明治期にかけてのわずか半世紀という短期間で我が国が自らの力で産業革命を成し遂げたことを、全国 8 県 11 市の 23 資産で証明しています。

このように一つの世界遺産価値をいくつかの資産で証明する手法をシリアルノミネーションといいます。それぞれの構成資産は他の構成資産と密接に関連しています。そこで、ユネスコから各資産の関連性が理解できるように取り組みを求められています。

ここでは、全国の資産の関連性と長崎が果たした役割について説明します。



産業革命は、ある日突然成し遂げられたわけではありません。

「製鉄・製鋼」、「造船」、「石炭産業」の産業化は、次の3つの段階を経て完成されました。

①試行錯誤の挑戦

蘭書を片手に、試行錯誤での鉄製大砲鑄造への挑戦や洋式船の模倣を行いました。

②西洋の科学技術の導入

西洋技術が導入され、技術を運用しながら専門知識を習得していきました。

③産業基盤の確立

国内で人材を育成し、需要に見合った西洋技術を定着させることで、産業化が完成しました。

産業革命に果たした長崎の役割の一部を紹介します。

○端島の石炭

鉄鉱石を製錬して鉄にする過程では、鉄鉱石の中にある酸素を取り除く必要がありますが、そのために石炭から作られるコークスという触媒が用いられます。端島炭坑で産出する石炭は、不純物が非常に少ないという特徴がありました。不純物が少ないということは、燃焼したときの火力が強だけでなく、コークスの材料としても利用することができました。

そして、我が国初の近代的高炉である八幡の官宮製鉄所でも端島の石炭で作られたコークスが使われ、製鉄・製鋼の分野にも大きく貢献しました。



(写真提供:新日鐵住金(株)八幡製鐵所)

コークスが使用された高炉(現存していません)

○長崎の知識

佐賀藩は長崎港の警護をしていた関係から、長崎の西洋技術に触れる機会が多くありました。今は失われていますが、ヒューゲンというオランダ人が書いた書物をもとに建造された反射炉が佐賀にも造られていました。

同じように造船技術も長崎から導入し、早津江川の河川敷にドックを建造して蒸気船「凌風丸」を進水させました。

現代のドックはポンプで排水しますが、動力がなかったこの時代、有明海特有の大きな干満差という自然の力を利用して排水したことに特徴があります。



(東京大学駒場図書館所蔵資料)

凌風丸の絵図

○長崎の技術と人材

高島の北溪井坑に初めて導入された蒸気機関という西洋技術は、手掘りによる採炭からの大きな変換点となりましたが、この西洋技術は、やがて隣の端島炭坑へ、そして有明海を渡った三池炭鉱へと移転されていきました。

そして三池炭鉱の外国人技術者のなかには、もともとは長崎の高島炭坑で働いていた人々もいました。つまり、明治期の我が国の炭鉱開発には、長崎の技術と人材が関わっていました。



三池炭鉱の宮原坑

# 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」

## 「教会群」から「潜伏キリシタン関連遺産」へ

### ●「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」とは

長崎と天草地方の潜伏キリシタンが、禁教期に密かに信仰を続ける中で育んだ独特の信仰形態を示す類まれな遺産です。

17世紀から江戸幕府が行ったキリスト教の禁教政策が続いた後、日本には宣教師がいなくなりました。しかし、各地の信者は宣教師不在の間も2世紀以上に渡り、神道や仏教といった在来の宗教を装いながら、密かにキリスト教の信仰を続けていました。

潜伏するきっかけとなる出来事が起こった「原城跡」、密かに信仰を続けていた各地の「集落」、信徒発見の舞台となった「大浦天主堂」など、長崎県、熊本県の6市2町に残されている12の構成資産で「禁教・潜伏期」を物語っています。



### ●「教会群」から「潜伏キリシタン関連遺産」へ

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、16世紀に日本にキリスト教が伝来し繁栄、禁教を経て復活するというプロセスを世界遺産価値として、平成28年の世界遺産登録を目指していました。

しかし、専門家の視点から遺産を評価するイコモスからの中間報告で、世界遺産としての価値は2世紀以上に渡り潜伏しながらも信仰を継承した「禁教・潜伏期」にあり、そこに焦点をあてて推薦内容を見直すべきとの指摘を受けました。

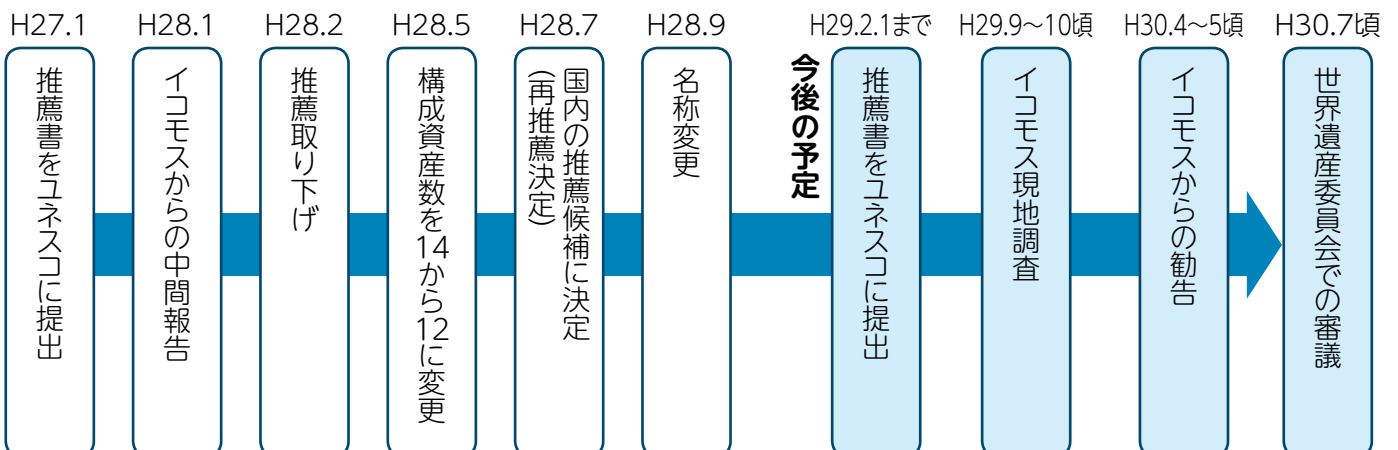
推薦内容を見直さなければ登録の見込みが薄いこと、推薦を取り下げればイコモスからの助言と支援が受けられることから、関係2県6市2町では、早期かつ確実な登録を目指すため、いったん推薦を取り下げることとしました。

その後、「禁教・潜伏期」に焦点をあてたことで、世界遺産としての価値や、構成資産の範囲（「教会堂」から「集落」へ）や数（14資産から12資産へ）を見直し、それに伴い名称の変更も行いました。

### ポイント！

- ・「禁教・潜伏期」に価値がある。
- ・早期の登録を目指すため、いったん推薦を取り下げた。
- ・推薦内容を見直し、名称も変更して再推薦。

### ●世界文化遺産登録に向けた道すじ



## ●長崎市内の構成資産

長崎市内には3つの構成資産があります。「禁教・潜伏期」に焦点をあて、これまで「教会堂」としていた構成資産を、潜伏キリシタンが信仰を続けていた「集落」へと範囲を見直し、構成資産の名称についても変更しました。

### 外海<sup>しつ</sup>の出津集落



外海の出津集落には16世紀にキリスト教が伝わりました。禁教・潜伏期にも、宣教師不在の中、集落内の宗教的指導者のもとで組織的にキリスト教の信仰が継承され、聖画や教義書、教会暦などの信仰関連物を伝承するなど、独特の信仰の形が育まれました。現在でも、集落を管轄していた代官所跡や指導者の屋敷跡、墓地などが当時と同じ場所に残されており、潜伏キリシタンの集落であった頃の様子がよく分かります。

集落内には、キリスト教解禁後、カトリックに復帰したかつての潜伏キリシタンの奉仕によって1882年に建設された出津教会堂があります。



出津集落内で伝承され、人々がイエズス会創始者のイグナティウス・ロヨラに見立てて拜んでいたといわれる「イナッショさま」  
(長崎市外海歴史民俗資料館所蔵)

外海の大野集落がある神浦<sup>こうのうら</sup>地域にも、16世紀にキリスト教が伝わり、宣教師の駐在所であるレジデンシアが置かれました。

禁教期には、表向きは仏教寺院に属しつつ、地区内の3つの神社の氏子として神道の信仰を装いながら、密かに自分たちの信仰対象を祀<sup>まつ</sup>って神社を祈りの場とし、キリスト教の信仰を継承しました。

集落内には、集落内の26戸の信者のために、出津教会堂の巡回教会として1893年に建てられた大野教会堂があります。教会の建設は、「禁教・潜伏期」の終わりを表していると言えます。

### 外海の大野集落



### 大浦天主堂



大浦天主堂は、江戸時代末期の1864年、居留地の外国人のためにパリ外国宣教会によって建設された、現存する日本最古の教会です。16世紀に長崎の西坂で殉教した二十六聖人に捧げられた教会堂であり、正式名称は「日本二十六聖殉教者聖堂」といいます。

完成直後の1865年3月、厳しいキリシタン禁制の中で2世紀以上に渡って信仰を守り続けてきた浦上村の潜伏キリシタンがプティジャン神父に信仰を告白した、いわゆる「信徒発見」が起こった場所です。この出来事は、潜伏キリシタンの伝統的な信仰の形態が終わるきっかけとなりました。

## ●シリアルノミネーション

「潜伏キリシタン関連遺産」も、一つの世界遺産価値をいくつかの資産で証明するシリアルノミネーションという手法をとっています。ここでは、長崎市内の資産と他の資産との関わりについて説明します。



原城跡(日暮雄一氏撮影)

### 始まりの出来事

禁教期の1637年、弾圧に耐えかねた島原と天草の2万人を超える潜伏キリシタンが、南島原市の原城(はらじょう)を舞台に「島原・天草一揆(いつぎ)」を起しました。団結したキリシタンによる一揆は幕府に大きな衝撃を与え、鎖国を確立させます。のちに宣教師も不在となり、各地の信者が自分たち自身で密かに信仰を続けるようになりました。

この出来事は、長崎地方の各地の集落で、潜伏という独特の信仰の形が育まれるようになるきっかけとなりました。



外海地区からの移住の図

### 各地の潜伏集落の形成

18世紀、大村藩は五島藩から要請を受け、外海地区から五島各地への開拓移住政策を採用しました。そして、この移住者のなかに潜伏キリシタンが含まれていたため、移住先にも新たな潜伏キリシタン集落が形成されていきました。(野崎島、頭ヶ島、江上、久賀島、黒島など)

1865年、大浦天主堂での信徒発見後、各地の潜伏キリシタンはカトリックに復帰していましたが、禁教令は続いていたため、浦上や五島で「崩れ」と呼ばれるキリスト教信者への弾圧も起きてしまいます。

## ●世界遺産登録に向けて

「潜伏キリシタン関連遺産」は、長崎市の2つ目の世界遺産として平成30年の登録を目指しています。

現在、長崎市を含む2県6市2町では、来年1月に提出する推薦書に反映させるための作業を進めていますが、ここでは、長崎市の取り組みの一部をご説明します。

### 集落の調査

構成資産が「教会」から「集落」に広がったことから、大野集落の特徴を調査しています。また、世界遺産は国内法での万全の保護が求められていることから、大野集落を文化財の1つである「重要文化的景観」に追加することも検討しています。

#### こんなことを調べています！

- 地区の歴史
- 土地利用の移り変わり
- 外海独特の石積文化
- 集落の景観

### 墓地の調査

禁教下にあった文久2年(1862年)の絵図には、出津集落の土地利用の状況が描かれていますが、道や畑、墓地の位置は現在でもほぼ変わっていないことがわかります。そこで、潜伏集落であったことを補強説明するため、当時からある墓地を調査しています。

#### こんなことを調べています！

- 墓石の形態
- 埋葬方法
- 出土品の分析
- 近隣の墓地との比較

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、平成30年の世界遺産登録を目指します。